

「実装機器通信規約標準化分科会発足について」

一般社団法人 日本ロボット工業会では、電子回路基板製造装置及びその関連ソフトウェアを製造する事業者が製造装置間の通信方法(M2M 連携)に関して共同で規格を策定していくため、「実装機器通信規約標準化分科会」を発足しました。初年度の分科会長は富士機械製造株式会社から副分科会長はパナソニック株式会社から選出し、ヤマハ発動機株式会社、JUKI 株式会社等の会員企業をはじめ、オムロン株式会社、株式会社サキコーポレーション、株式会社タムラ製作所、CKD株式会社を幹事会社として表1の会員会社20社で標準化を進めます。

現在の電子回路基板製造ラインには、一般的に印刷・検査・マウンタ・リフローなどのさまざまな装置と、それらをつなぐ搬送装置が存在し、かつそれらのメーカーが異なっている事が大半です。この場合、装置内の基板情報の持ち方および他の装置との通信方法は各社独特で、ライン全体での一貫した情報管理はたいへん手間とコストがかかり、ユーザーの負担になっていました。

この分科会では、実装ラインに設置されたさまざまな製造装置間の通信ルールを標準化することで、企業の垣根を超えた実装システムをユーザーがシンプルに構築しやすくなり、生産管理の容易化・変種変量生産への迅速対応などのメリットと、メーカー各社にも M2M 連携のしやすさから新たな価値提供を生むチャンスとなります。

そして今回の活動を通じて、将来のさらなる実装業界の発展に貢献してまいります。

オムロン株式会社	小松電子株式会社	株式会社サキコーポレーション
千住金属工業株式会社	株式会社タムラ製作所	株式会社ナガオカ製作所
名古屋電機工業株式会社	日本ミルテック株式会社	パナソニック株式会社
富士機械製造株式会社	マイクロニックテクノロジーズ株式会社	マランツエレクトロニクス株式会社
武蔵エンジニアリング株式会社	ヤマハ発動機株式会社	ワイエス株式会社
CKD株式会社	JUKI 株式会社	KOH YOUNG TECHNOLOGY INC
Parmi CO.,LTD	Test Research, Inc.	50 音順

表1：実装機器通信規約標準化分科会 会員会社一覧

